



能古博物館だより

Ich ondergesz: meester Albert Croon
 Bekenne Sara Samcin Discipel
 Inde Churighys Cunst geskildert
 te hebben soo veel myn Bekent
 en hebbe Lijf segge hy Sara Samcin
 met nauwe opmerkingh wel Begrepen
 October 10^{de} A^o 1685^o Albert Croon

原三信家とオランダ医術

企画展に出品 江戸時代の「外科術免状」

理事長兼館長 原寛

それは壊れた錠前が付いた古い朱塗りの二重の桐箱に収められています。私の先祖である六代原三信(1711年没)が留学先の長崎・出島で2人のオランダ医師に学んだ「オランダ流外科術」の免状¹上の複写²です。そのほか毛筆で丹念に書き写した「日本語訳付きの精密な人体解剖図」と「外科術式図譜」も入っています。

「二子相伝、門外不出」の家宝として約300年間、原家歴代の長子に受け継がれ、今日に至りました。

代々の三信は「非常のときは桐箱を二番に持ち出せ」と厳重に申し渡されていて、太平洋戦争の末期、1945(昭和20)年6月19日の福岡大空襲で自宅は丸焼けになりましたが、十四代三信は身をもって守り抜きました。

鳥の子紙の強靱な日本紙に書かれた免状は巻物になっており、1685年10月18日の日付が記載され、オランダ商館勤務の2人のオランダ医師が署名しています。

1685年といえば將軍綱吉の時代。海外渡航は国禁とされ、わずかにオランダと中国が長崎を中継基地に交易を許

可されていました。



原 寛

六代目三信は生年が不明なので何歳の時に長崎に留学し

たのか判りませんが、30歳前後の頃、海外の医術、とくに外科術が優れていると聞いて、仕えていた黒田藩52万石の殿様に留学を申し出て、許されたのではないかと想像します。

26年前の1985(昭和60)年は六代原三信が蘭方外科免状を授受されて300年目の記念すべき年でした。

当主の二五代三信は記念誌の序文で次のような感懐を述べています。

「万里の波濤を越えて東洋の一隅に至り、周囲から閉鎖された出島オランダ館内において、六代三信に蘭方外科術を熱心に教授された二人のオランダ医師、ひいてはオランダ国ならびに六代三信が数年にわたって滞在した長崎の地に、限らない感謝の念と深い旧懐の情を禁じ得ない。」

六代三信が残した「日本語訳付きの精密な人体解剖図」と「外科術式図譜」については、紙幅の関係で割愛しますが、前者は杉田玄白らが翻訳した有名なターヘル・アナトミア(解体新書)に先立つこと約90年前に、既に存在していた点を申し添えたいと存じます。

23日から企画展開催

能古博物館では9月23日(金)から企画展「江戸時代・福岡地方の医学―原家・亀井家を中心に―」を開催します。

江戸時代の医学史①

企画展に寄せて

久留米大学 吉田洋一

はじめに

東アジア交易の拠点の一つとして古代から重要な役割を担ってきた博多。黒田氏が筑前に入国し、江戸時代の「鎖国」体制下に至っては、幕府直轄の外交窓口である長崎の警備を、佐賀鍋島藩と福岡黒田藩は隔年交代で担当していました。当然のことながら、長崎警備の藩士達は、長崎及び長崎人をはじめ、唐通詞・オランダ通詞との関係が他藩の藩士に比べより緊密であったはずですが、したがって、自然科学の目新しい知識なども入手することが容易であったことでしょう。

医学に関して言えば、従来までの中国医学に加え、江戸時代中期以降の「蘭学」の受容により、西洋医学の知識を摂取することも可能となりました。このような地域性をふまえて、福岡藩の医学の特徴を考えてみると、「西洋医学との接触」という点を検証することは重要なことだと思えます。

江戸時代における中国医学史の受容を概観しつつ、中国医学を基盤としてどのように西洋医学を咀嚼していったのかということ、本号から4回にわたり、北部九州、特に江戸時代の福岡地域を中心として述べていきたいと思います。

江戸時代医学史

日本近世医学史を概観しようとするとき、前述したオランダ流医学の受容に代表される「西洋の学問との接触」が医学史のなかでは分岐点となりますが、日本ではその頃すでに「日本型中国医学」と称すべき思考様式が確立していました。その思考様

式を踏まえた上での西洋医学の受容①②③というものは困難を極めます。

幸い杉田玄白(一七二二～一八一七)・前野良沢(一七二三～一八〇三)らを中心とした『解体新書』の訳述等に端を発する活動が、技術的側面(外科的治療など)においては、その後の明治期における西洋医学受容の基盤となったことはご存じのことでしょう。

特に享保期以降の、蘭学を中心とした医学受容の背景には、西洋医学の思考様式そのものよりも、個別的かつ具体的な事象、例えば解剖学に関することや死生観②③といったものに関して、個々の学者レベルで様々な見解が表出しています。したがって、「西洋医学の受容」について論ずる前に、中世・近世移行期から、近世中期頃までの医学史を概観しようと思えます。

徳川幕府が官学として朱子学を重用することによって、医学の分野でも従来の仏教思想を中心とした医学に代わって朱子学を基盤とした医学が日本に紹介されました。その医学は「李・朱医学」③④と呼ばれ、元来田代三喜(一四七三～一五四四)④⑤が最初にわが国にもたらしたといわれており、その門人の曲直瀬道三(一五〇七～一五九五)⑤⑥によって大成され、江戸時代初期には医学の中心的位置を占めていました。しかし、宋学(朱子学)を基盤とする複雑な自然科学の法則は、言語・風土の違う日本で、しかも書物のみを頼りに受容することは大変困難であって、時代を経るにつれて当初のものとはかけ離れていったようです。折しも、幕府の官学として採用された朱子学に対して、復古主義を説いて古義学派を創設した伊藤仁斎(一六二七～一七〇五)らとほぼ同時期に、同じ京都で当時の「李・朱医学」に対して疑問を抱くものが現れました。名古屋玄医(一六二八～一六九六)です。彼は曲直瀬流の医学を「煩瑣な空理空論」と一蹴し、明代に成立した『傷寒論』

(後述)の注釈書(喻嘉言の『傷寒尚論』などに傾倒、李・朱医学を廃して張仲景の古に還らなければならぬことを唱え、『居方問余』(一六七九年刊)⑥⑦を著しました。



曲直瀬道三 『醫家先哲肖像集』より

『傷寒論』⑦⑧は、後漢代に張仲景(一五〇?～一〇〇)が編纂した中国医学の古典の一つであり、近世日本医学に於ける復古運動は、まず『傷寒論』の精密な解釈からはじまったといわれています。この唱導は日本独自のものであり、東アジア文化の中でも注目すべき転換点であり、以後この医学を提唱する医者は「古医方(法)派」と呼ばれます。

名古屋玄医の登場から三十余年を経て、後藤良山(一六五九～一七三三)の頃になると、李・朱医学から完全に脱皮して、いわゆる「古医方」の呼称が定着します。同時に従来までの曲直瀬流医学は、「後世派」と呼ばれます。良山はほぼ独学で医学を習得したため⑧⑨、その結果、伝統的な医学に拘束されることなく独自の考え方を生み出しました。その医説は「二氣留滯説」と呼ばれるもので、体内をめぐる「元氣」がどこかで滞ると、それが病気の要因となる、と説きました(『師説筆記』⑨⑩)。そしてその滞った「元氣」を再び活性化させる治療には熊胆・灸艾・温泉をよく用いたといわれます。「湯熊灸庵」と称された所以であり、彼の活動により復古運動を基盤とした新しい医療が認知されはじめるのです。

長山の門人は二百人以上といわれていますが、その中でも著名なのが香川修庵(二六八三〜一七五五)と山脇東洋(二七〇五〜六二)です。修庵は初め伊藤仁斎に入門して儒学を学び、のちに儒と医は元来一つであるといひ、「儒医一本説」を説きました。さらに修庵は、「自身の実践により合致しない治療はたとえ古典の記述であっても削除する」という徹底した実証主義を提唱して古医方をさらに発展させました。山脇東洋は『蔵志』(二七五九年刊)という解剖書を著したことにより、日本の解剖学の先駆的役割を担いました。



後藤良山 『醫家先哲肖像集』より

- 【参考文献】
- 吉田洋「福岡藩の医学」(東アジア地域間交流研究 究会編)から船往来(中国書店、二〇〇九年所収)
- ①特に明治期における西洋医学受容及び漢方医学復興に関して、深川晨堂『漢洋医学闘争史・政治闘争篇』(初版一九三四年・舊藩と醫學社、復刊一九八一年・医聖社)に詳しい。
 - ②「死生観」というテーマ自体きわめて抽象的事象ではあるが、個々の学者の「生死」に対する考え方には非常に論理的考察が施されておりここで敢えて記した。
 - ③李・朱医学とは、中国金元時代に確立した医学理論で、宋儒性理の説を本とし、特に元代の李東垣(一一八〇〜一二三〇)・朱丹溪(一二八二〜一三五六)の名をとってこう呼ばれた。(酒井シツ氏『日本の医療史』東京書籍、一九八二年、二五二〜九頁)
 - ④三喜は武州・川越に生まれ、長享元年(一四八七)より明に渡り、帰国後(二四九八年)古河公方・足利茂氏に重用されたといわれている。(『田代三喜』近世漢方医学書集成1名著出版、一九七九年所収、矢数道明氏の解説、及び『日本の医療史』二六二〜二頁、など参照。)
 - ⑤彼は初め相国寺の禅僧であったが、遊学の折三喜と出会い、天文二五年(一五四六)僧をやめ医学を専業とし



山脇東洋 『醫家先哲肖像集』より

今回は、福岡藩医の「原三信」について述べます。

企画展のねらい

企画展「江戸時代・福岡地方の医学―原家・亀井家を中心に―」に登場する原家は、六代目原三信が貞享2(1685)年10月18日付で授与されたオランダ医学修業の免許状が有名で、現在まで300年以上にわたって福岡地域において医療活動に従事してきました。

亀井家は、江戸時代後期に儒学者として名を馳せましたが、南冥の父聴因は医者であり、南冥が唐人町で私塾を開いたとき、父子ともに診療所を併設していました。

両家とも今後さらなる検証が必要ですが、これまで埋没していた資料にスポットを当てながら『江戸時代・福岡地方の医学』に迫ります。

皆様のご来館をお待ちします。

開館日などの詳細は裏表紙をご覧ください。

- ⑥大塚敬節『近世前期の医学』(『日本思想大系』三六・近世科学思想下・岩波書店、一九七二年、所収)など参照。
 - ⑦張仲景が編纂した「傷寒」という伝染病に関する記述をまとめたもの。中国医学の重要な古典の一つで、現在の臨床医学の基礎となるもの。
 - ⑧名古屋玄医に指南したが、入学金が払えずに断られたという。(前掲『日本の医療史』三三八頁。)
 - ⑨長山の門人が筆記したもの。前掲『日本思想大系』三六・二八五頁、及び『後藤良山・山脇東洋』(近世漢方医学書集成③)二八〜九頁。
- (よしだ よういち・一九七〇年飯塚市生まれ・久留米大学文学部准教授・日本近世儒学史、医学史専攻・能古博物館非常勤学芸員)

能古博物館所蔵「石橋家文書」から

ある乱暴狼藉と詫び状

(参照資料・仮番号／平成18・107、平成18・93)

友の会会員

石橋善弘
早船正夫

同

お金にまつわる話が続いたので、ここでは目先をかえて庶民の日常生活の一面に目を向けてみよう。

仮番号／平成18・107は、石橋善五郎(後の善左衛門房重)があることを願いだした時の「覚」である。

姪濱村大庄屋格石橋善五郎乍畏

奉御願申上候是之覚

一 私儀是迄御蔭ヲ以酒造渡世仕難有仕合セニ奉存上候 然ルニ最前当所王然寺ト申す寺中ニ浄瑠璃追善供養御座候ニテ私召遣下人共

式人聞ニ参り候此儀只今之折柄不勘弁之次第第一私不届之儀奉畏入候然ルニ同人共婦り

之節且過町源右衛門善兵衛安次次八吉右衛門と申者五人ニテ聊下人共江不埒筋も無御座候得共

喧嘩致掛ス存念ニテカ氏神之地に呼人不調法之儀有之候様申掛ニ相成り候得共平日不埒筋茂無

御座候由申分ケ仕候処何程之立腹ニテカ直ニ表付堂階下端ニテ土足ニ取計志人ニテハ難押留大勢

之事故何様不申及手ニ打擲被致之内改役善三方へ相届ケ申候処直ニ同人出浮押留其場ハ引取申候由

甚右躰奉畏入候乍併質素ニ計度奉存候得共能々勘弁仕申候処此後公役筋其外町内

出方御座候節万々不意之事御座候ニテハ相済不申右五人之内不風俗之者も御座候

畢竟此儘仕置候ニテハ猶々人氣に茂相拘申候と

奉存候尚又渡世向江相妨甚難渋仕候間何分にも

此先無躰之儀申掛喧嘩口論等又々出来奉掛

御厄介候儀御座候ニテハ第二御時節柄弥候奉

畏入次第二奉存候乍畏右躰之儀無御座候様

御慈悲之上何分共被為聞召分乍畏

御聞通被 仰付 御才判了被為成下候

奉願上候 以上

大庄屋格

石橋善五郎

未六月廿一日

早良

御郡代御役所

「二度と悪さは致しません」

安政6年(1859)6月20日夕刻、姪濱の王然寺(現福岡市西区姪濱3丁目)という寺で浄瑠璃供養があったが、その時、姪濱村大庄屋格注石橋善五郎(後の石橋善左衛門房重)の使用人2人が、旦過町の源右衛門、善兵衛、安次、次八、吉右衛門の5人に氏神(現福岡市西区姪濱3丁目の住吉神社らしい)の境内に呼び込まれ、身に覚えのないインネンをつけられ乱暴狼藉をうけた。そのうち改め役善三に届けたので、善三が直々に出て行って、その場を引

き取った。この事件に対して翌日、石橋善五郎が早良郡役所に書面をもって、「あまり大げさにはしたくないが、爾後道普請等の公役やその他の出方があったときなどに万一のことがあるてはいけないし、また日常生活に支障をきたす恐れがあるので取締ま

つてほしい」と願いだした。

これに対して何らかの処置がなされたと思え、5人の者が、石橋善五郎宛に誤書物(詫び状)を提出し、「石橋家の方々はいうまでもなく、人が集まるよ

うな折にも、他の人々に対しても二度と悪さは致し

ません」と誓っている(仮番号／平成18・93 写真参照)。

誤書物之事

一 去ル廿日夕浄瑠璃聞婦り之節 貴殿方召遣之人無難ニテ打擲

い当し候処不風俗御聞込ニテ既ニ御役所江御申出に相成処其場所御押留ニ相成候改役善三様並御町内中様江御嘆申上昼夜御運び之上御願出能程ニ承引被下難有奉存候乍併此先貴殿方男女ハ不及申迄ニ立市物聞見之節他方人々たり共如何躰之儀有之候共喧嘩口論手遊之儀決テ致間敷候万々一聊不風俗之儀及御聞御座候ハ其節は御取締役筋江御引合被成候共致方無御座候仍テ後年迄誤一札如件

当町

吉右衛門

次八

安次

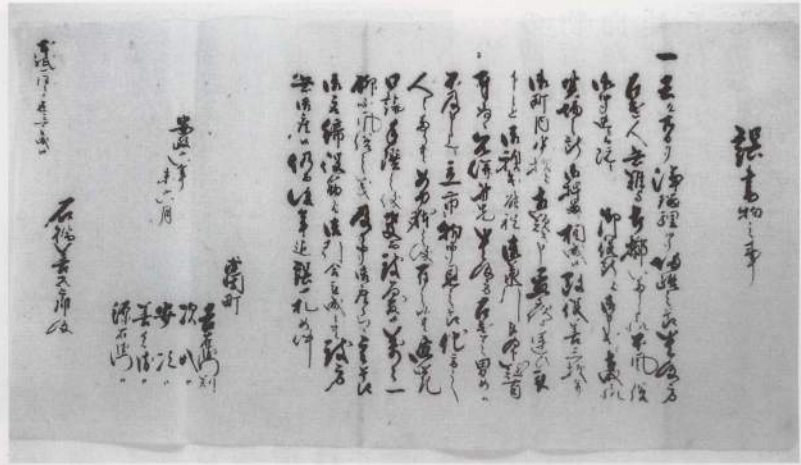
善兵衛

源右衛門

石橋善五郎殿

このように、訴状と詫び状がそろって出てきたのは面白い。一見すると、使用人が一度乱暴狼藉を受けたくらいで、すぐに(事件の翌日)爾後のこともあるので取締まって欲しいと郡役所に正面きつて訴え出るのは聊か過剰反応とも思われるが、おそらくそれまでも同様のことが何度かあって、町の住民が迷惑を被っていたというような背景が

(写真)



た可能性も排除できない。

お寺は「ライブハウス」

ところで、訴状に浄瑠璃供養という語が出てくるが、おそらく浄瑠璃が本命で、宗教的な供養の方は付け足しであろう。職業浄瑠璃師の公演か、素人の演芸大会のようなものかはわからないが、いずれにしても浄瑠璃が加害者や被害者のような若者達に人気があったことがうかがえる。また、多数の人が集まることのできる場所はほとんどなかったと思われる当時、お寺がそういう場になっていたらしいこともわかる。

あったのだらう。

誤書物の方はひな形も残されているが、なかの文章であり、若者たちが自分で書いたとは思えない。町中に教養のある人物がいたらしい。或は、石橋家の方で詫び状を準備して、「ここに判を捺しなさい」と迫っ

訴状にも詫び状にも、「不風俗」という語が出てくるが、その意味するところには違いがあるようである。「不風俗」というのは、一般には行儀の悪い事や服装の乱れ等を意味していて、実際詫び状ではそのような意味で使われている。ところが、訴状ではわざわざ「五人の中には不風俗の者がいた」といつていることからみて、この場合の「不風俗」には、単に「悪さをする」だけではなく、男が女の服装をして通りを闊歩し悪さをする事、あるいは妙な稼業に従事することなどの特別の意味があったのである。いつの世にもいかがわしい奴がいるものだと感を感じ得ない。

江戸末期安政の頃(1850年代)の姪浜宿の様子が伺える興味ある資料である。

注:「大庄屋」と「大庄屋格」とは別物である。大庄屋は福岡藩では30人程度しか任命されていない。いくつかの郡の庄屋の中から年功者や交渉力にすぐれた者が選ばれ、専業としてその任に当った。専業であるから、藩から役料のほか、小者という使い走りをあてがわれている。他方、大庄屋格というのは、藩に対して主として金銭面での貢献度の高かった者に与えられた「格」であり、名誉ある地位ではあっても、権力は付随していない。

家制度が厳として存在していた江戸時代には、一般には「大庄屋格」というのは「家」に対して与えられた「格」と考えられるが、必ずしもそうではなく「個人」に与えられたケースもあるらしく、石橋家文書のなかには、当主だけでなくその子供(成人男子)2人のそれぞれに「大庄屋格」という肩書きのついた連名の文書もみられる。

(いしばし よしひろ・東大院卒・名古屋大学名誉教授・理学博士)

(はやふね まさお・九大卒・郷土史家)

「サンデーナイト講演会」開く

『ロシナンテス』へ支援寄金

97万2千803円

川原尚行医師を招いて開いた「サンデーナイト講演会」現地報告「スーダンと東日本」子どもたちへの約束(「新老人の会」九州支部主催、能古博物館友の会など協力)は9月18日午後6時半から福岡市中央区赤坂の中央市民センターで開かれた。台風15号の接近、3連休の中日、しかも夜という悪条件のもと、集まった約200人は川原医師の「熱い想い」をうなずきながら聞き入った。

音楽家の池松佳奈子さんが司会を務め、賛助出演の「博多にわか五月会」の皆さんが前座で登場すると雰囲気は一気になごやかに。川原医師は「ロシナンテス」が8月に日本に招いたスーダンの子どもたちと日本の子どもたちが各地で交流する姿を映像を交えながら語り、「21世紀の子どもたちを育てるのは我々大人の責任だ」と強調した。

最後に主催の「新老人の会」九州支部の世話人代表原寛さん(能古博物館理事兼館長)が支援寄金97万2千803円の日録を川原医師に渡し、川原医師の先輩(九大医学部第2外科)で国立九州医療センター名誉院長の朝元則さんがお礼の挨拶を述べた。

写真右から2人目が川原医師
・お断り!講演会の詳しい報告は次号の「館だより」に掲載します。



◆「ロシナンテス支援寄金」◆(追加分・敬称略)

「個人」▽外山朝子▽吉倉禎子

見学記

復元・北前型弁才船
『みちのく丸』

黒田 康介

青森市にある「みちのく北方漁船博物館」が6年前に復元建造した「北前船」の『みちのく丸』(千石船)が今夏、鳥取県境港に寄港した。写真。江戸時代から明治中期まで広く日本沿岸の物流を担った北前型弁才船の再現である。平成16年〜17年に約9ヶ月掛けて復元された。



8月上旬、『みちのく丸』を境港に訪ねた。

「北前船」とほぼ同時期、能古島と糸島半島東部の浜崎、今津、宮浦、唐泊の五つの浦は「筑前5ヶ浦廻船」で栄えた。

能古博物館はその史実を常設展示する国内唯一の博物館である。こちらは主として太平洋沿岸の物流を支えた。福岡藩の米穀を積んで大坂、江戸へ向かい、帰路を利用して東北、北海道にまで船足を伸ばし木材などを運んだ。全盛期には50〜60隻の千石級大型弁才船が博多湾に停泊したという。しかし史料に乏しく、残念ながら「北前船」や大坂の「樽廻船」、「菱廻船」、紀伊国屋文左衛門の「みかん船」のような知名度はない。

弁才船は当時最も速力と凌波性に優れた帆船だった。しかも『みちのく丸』は米千石(重量150ト)を積める大型船だ。「筑前5ヶ浦廻船」の性能、型式と酷似している。「実物をこの目に焼き付けておきたい」と思った。

JR境港線の終点境港駅で降り、岸壁を見渡すと100ほど先にひとときわ高い帆柱と幟はためく和船が目に入った。『みちのく丸』だ。

青森から小樽に回航、そこから一気に南下して島根、鳥取の美保関、安来、境港に寄港。これから小浜、敦賀、金沢、富山、新潟、酒田、秋田と北前船ゆかりの各地を巡って青森に帰る。

乗船見学が始まった。案内役は「みちのく北方漁船博物館」の昆館長さん。かなりの強行軍にお疲れのことと思う。

『みちのく丸』の特徴はまず帆柱の高さである。全長28m、甲板からでも25mある。停泊中は帆を下ろしているが、帆走時はこの帆柱に縦22m、横幅20mの一枚帆を張る。船の長さは32m、幅員は8.5mだから、船幅の2倍を超える大きな帆を張ることになる。

能古博物館は「筑前5ヶ浦廻船」の模型(縮尺8分の1)を展示している。全盛時に活躍した弁才船型の千石船。私は来館者に説明する際、「姫浜から乗ってこられたフェリー」とほぼ同じ長さの32m、高さは遙かに高く帆の高さだけで20m、幅は若干狭い。とお伝えしているが、まさに「北前船」も同様である。

積荷の米を満載(米150トは1俵60キ換算で2,500俵)する場合は底板をはずして船底を深くする。「後部をやや重く」と昆館長。

操船は難事中の難事だったろう。約20m四方に及ぶ巨帆の操り方の巧拙は当時の大型帆船の死命を制した。船内に2本の轆轤があり、これに帆を引く大綱を巻き付け、風向、風力に合わせて長さを調節した。写真。舵の柄も5mほどあり難所で3人掛かりで操作した。5ヶ浦廻船の千石船は百石につき1人の割合で乗り組んだが、北前船は13〜14人と多かった。



荒天時、総掛かりで帆を操り舵に取り付く乗組員。その厳しい表情と練達の操船に思いを馳せながら船を下りた。

今回の航海は北前船ゆかりの10道県の新聞社が共催した。次の寄港地・鳥根県美保関港に向かう『みちのく丸』を水路出口近くで待ち受けたが、期待した帆走ではなくタグボートに引かれての出港だった。写真。(能古博物館理事)

・みちのく北方漁船博物館 北日本地域の木造船隻を収集、保存、展示する目的で1999(平成11)年に開館した。丸太船をルーツとする北方地域の木造船隻を多数収集するほか、「みちのく丸」のような動態保存にも力を入れる。昨年9月、公益財団法人に移行した。



能古博物館協賛会・友の会

継続・新規会員 (平成23年9月現在)

法人協賛会員

- ・医療法人 笠松会有吉病院
- ・税理士法人エム・エイ・シー
- ・ギヤフリース
- ・医療法人社団江頭会さくら病院
- ・医療法人社団廣徳会岡部病院
- ・多々良福祉会 特別養護老人ホームなごみの里
- ・多々良福祉会 たいようの里
- ・(株)CDS
- ・福岡メデイカルリース
- ・医療法人恵光会 原病院
- ・(株)サンコー
- ・浄満寺
- ・(株)メデイカルアシスト青葉
- ・(医)大乗会 福岡リハビリテーション病院
- ・(株)彩苑
- ・(株)豊友技建工業
- ・E-ムサービス(株) HSS九州事業部
- ・(有)トータル・サポート・コーポレーション
- ・(株)ホームケアサービス
- ・西日本シティ銀行土井支店

(敬称略・順不同)

個人協賛会員

- 明石 散人
- 足立 晴道
- 安藤 文英
- 石野 智恵子
- 出口 親
- 上野 典雄
- 岡部 道雄
- 岡部 きよみ
- 柏木 重人
- 亀井 准輔
- 久保 千春
- 熊谷 豪三
- 毛戸 彰
- 朔望
- 朔元 則
- 昇地 三郎
- 仁保 喜之

- 関敏巳
- 添島 律子
- 平祐一
- 多々羅 節子
- 津田 泰夫
- 津村 建次
- 寺坂 禮治
- 寺田 隆
- 戸井 雅貴
- 原敬二郎
- 原 寛
- 原 真澄
- 原 礼子
- 藤井 鉄夫
- 福山 智美
- 増田 康治
- 翠川 文子
- 本松 利治
- 八木 博司

友の会会員

- 明石 久美子
- 明石 幸
- 赤松 慶礼
- 秋山 雄治
- 秋吉 包雄
- 新川 時弘
- 荒巻 和子
- 池田 修三
- 池田 昌朗
- 池田 幾生
- 石井 福美
- 石井 智子
- 石橋 清経
- 石橋 哲治
- 石橋 延枝
- 石橋 正治

- 石橋 善弘
- 一鬼 秀之助
- 市丸 喜二郎
- 市丸 豊
- 出光 芳秀
- 井上 昭義
- 稲葉 英彦
- 今永 一成
- 今村 さち
- 石清水 由紀子
- 岩本 博秀
- 上園 幸則
- 上田 恒久
- 上田 博
- 上瀧 玲子
- 上原 孝正
- 上村 八郎
- 魚住 夫佐子
- 牛島 弘子
- 内山 茂美
- 内山 節子
- 宇都宮 邦子
- 内海 眞記子
- 梅埜 國夫
- 浦田 裕
- 江口 正一
- 江崎 小二郎
- 江原 幸雄
- 大石 恭仁子
- 大野 彩子
- 大木 茂
- 大島 照子
- 大智 玲子
- 大庭 浩司
- 大庭 静枝
- 岡部 九州生
- 岡本 顕實
- 小川 誠
- 小川 道博
- 荻原 美枝子
- 小野 崎徹子
- 小山 田公子
- 柏木 和子
- 香月 悦子

- 金子 柳水
- 嘉村 正子
- 川田 啓治
- 河野 眞博
- 川辺 真二
- 河村 敬一
- 木血 敦代
- 岸和枝
- 岸 洋子
- 岸川 伸子
- 吉瀬 宗雄
- 城戸 兼子
- 木戸 龍一
- 清田 美弥子
- 久世 玲子
- 久武 英子
- 國武 正隆
- 久芳 正隆
- 黒田 明子
- 甲本 達也
- 古賀 勝子
- 小坂 セツ
- 小堀 瑠伊子
- 児玉 修一
- 小宮 作
- 小柳 定子
- 小山 京子
- 小山 富夫
- 小山 やすよ
- 境 小工
- 榊 和美
- 坂口 征雄
- 坂梨 喬
- 櫻木 榮紀
- 佐藤 郁男
- 執行 敏彦
- 篠田 栄太郎
- 篠原 ヨシ子
- 柴本 次雄
- 柴本 隼太
- 島塚 祐弘
- 白橋 裕美
- 進藤 邦彦

- 進藤 康子
- 杉謙一
- 杉原 正毅
- 杉山 謙
- 杉原 祐子
- 鈴木 友和
- 住本 直之
- 住本 霞
- 関賢司
- 瀬戸 美都子
- 芹野 二美
- 高木 いづみ
- 高嶋 幸江
- 高嶋 俊光
- 高根 季雄
- 高松 まり
- 武田 洋子
- 田坂 大蔵
- 田里 朝男
- 田代 朝子
- 立石 京
- 谷口 治達
- 田村 奈央
- 鶴田 スミ子
- 徳永 武生和子
- 泊 秀治
- 富永 靖雄
- 豊田 文彦
- 豊田 富美子
- 長尾 勲
- 永岡 喜代太
- 中島 謙吾
- 中島 怜子
- 中園 克郎
- 中野 晶子
- 中野 和
- 長野 静香
- 鍋島 典司
- 西方 靖子
- 西牟田 奈々
- 西山 紀子
- 野崎 逸郎

- 長谷川 寿美子
- 播口 弘子
- 波多野 直之
- 服部 たか子
- 花田 ひろ子
- 林 十九楼
- 林 由紀子
- 原和美
- 原 順子
- 原 靖子
- 原 祐一
- 原口 和子
- 原坂 泰盛
- 原田 雄平
- 東原 慶治
- 日野 原重明
- 姫野 弘子
- 平川 好美
- 平川 良輔
- 廣田 恵美子
- 福井 和子
- 福元 殖
- 福富 節子
- 福元 征四郎
- 藤瀬 三枝子
- 藤田 信義
- 藤村 昌弘
- 古川 映子
- 豊丹 生昌義
- 星川 満智
- 堀川 大助
- 前田 敏也子
- 眞柴 和子
- 舛永 登世子
- 眞角 磨鬼枝
- 松井 俊規
- 松尾 純子
- 松岡 智恵子
- 松熊 友彦
- 松本 美津子
- 的野 千鶴子
- 丸山 敏子
- 三浦 佑之

- 見沢 照栄
- 三角 幸子
- 溝口 進
- 三戸 京子
- 三苦 進
- 南アサノ
- 三野原 勝子
- 三原 聡
- 三宅 碧子
- 宮崎 集
- 宮崎 美津子
- 村上 牧
- 杜あとも
- 森 恍次郎
- 森 純子
- 森 正敏
- 森口 智子
- 森下 昭子
- 森本 忠男
- 安恒 忠男
- 安保 博史
- 安松 淳祐
- 矢野 鈴子
- 八尋 祥文
- 山川 美也子
- 山口 勝久
- 山田 博子
- 山本 留美
- 吉開 史朗
- 吉倉 禎子
- 吉田 登美代
- 吉田 泰久
- 吉田 洋一
- 吉松 須和子
- 吉安 蓉子
- 米倉 満子
- 脇山 玉枝
- 和田 宏子

注：敬称略(五十音順) 数字は会員歴(年数)

- (一) 協賛会会費
個人1口 一万円
法人1口 三万円
(何口でも可)
- (二) 友の会会費
1口 三千元
(何口でも可)
- ※会費の納入方法
郵便振替
0173-660970
財団法人能古博物館
- (1) 振込み料は当館にて負担させていただきます。
- (2) 受付は次第、会員証とコーヒーチケットをお送り致します。
- (3) 会費有効期限は1年と致します。
- (4) 入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受付けにご提示下さい。ご入館は随意で回数制限はなく無料です。
- (5) コーヒーチケットで挽きたての香り豊かなコーヒをサービス致します。
- (6) 能古博物館だよりを年数回お送り致します。また、会員の皆様の御寄稿、ご意見は同誌に掲載致します。但し、掲載事情で掲載を見送る場合がございます。予めご了承下さい。
- (7) 館が企画する催加費のご案内を致します。



アクセス

西鉄バス

・JR博多駅 博多口正面Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行: 約50分

・天神 三越前1Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行: 約30分

市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

・西鉄バス姪浜駅 南口
98番 能古渡船場行: 約12分

・タクシー: 約 8分

市営渡船(フェリー)

・姪浜-能古島間: 約10分

能古島渡船場より博物館まで

・徒歩: 約5分~10分
・アイランドパーク行き西鉄バス停
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

問合せ

姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709
能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

能古・姪浜航路時刻表

	姪の浜 発	能古 発
5	15	00
6	30	15 45
7	00 30	15 45
8	00 30	15
9	15	00
10	15	00
11	15	00
12	15	00
13	15	00
14	15	00
15	15	00
16	15	00
17	15 45	00 30
18	15 45	00 30
19	45	30
20	30	15 45
21	00	45
22	00	45
23	00	00

◎印は日祝日運休 2010年10月現在

開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください
団体20名以上2割引

入館料/大人400円・高校生以下無料

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成23年7月16日現在)

渡船場前発(能古学校前まで約2分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	12 55	45	30	30	55	35	35	35	45		
土曜日	12 55	45	30	30	55	35	35	35	45		
日・祝日	12 55	45	30	30	55	35	35	35	45		00

アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	30	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
土曜日	30	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
日・祝日	30	20	3	13	28	18	18	18	18	28	38

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



財団法人 亀陽文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp